

私はインターンの二週間、旧由岐町木岐地区と由岐湾内地区にてお世話になりました。主に木岐ではまちづくり、由岐では防災活動について調査しました。

木岐地区

木岐は、海・川・山が揃い、多様な魚介類が採れる美しい自然をもつ町という第一印象です。一方で、集

落人口が減少し、空家が多く、若者が少ないという現状から、「昔より寂しくなった」など喪失感ある声が住民から聞こえました。その中でも「わいわいKIKI」を中心とした地域コミュニティ活動や町の花壇の手入れ、駅のトイレ掃除などを毎日されている個人のボランティア精神など、「自分たちで町を元気にさせよう」という「人の力」が強い町であると思います。しかし、そうしたまちづ



くり活動に尽力される方は一部で、持続可能に機能していない「歯がゆさ」を感じました。今後、確実に町の人口規模が縮小する中で、「十、二十年後の木岐に何を残していくのか」について、現状に危機感を抱き、町住民全体で共有したビジョンを持つ必要性を感じました。



由岐湾内地区

由岐では、「西の地防災きずな会」を中心として、「南海トラフ巨大地震」に備えた防災活動が活発な町という印象です。住民に、地震・津波に対する防災意識についてヒアリングを行うと、「三一一以降、津波に対する考えが一八〇度変わった」など危機意識が高まっていると同時に、「津波を恐れて他の地域に引っ越した」という、予想される災害が地域の過疎化に拍車をかけている現実を知りました。

一方で、住民と行政が協働し、防災避難路づくりが行われていますが、担い手の多くが高齢者の方であり、活動の持続性には問題が見られます。過疎高齢化が進行する地域だけの防災対策には限界があるのでないかと感じました。

こうした現状に基づいて、私が提案したことは、防災ボランティアを対象とした「防災ツーリズム」の展開です。避難路整備など、人手不足が問題となる防災活動へのボランティアを募集し、同時に地域住民との交流をも実施することで、地域防災の向上だけでなく、地域間との交流を推進し、由岐の魅力に価値を見いだす新たな参入者を確保することで活性化を図れるのではないかと考えています。

最後に

半月のインターン期間、お世話になりました美波町の方々には大変感謝しております。都市部に住む大学生として、自分の知見を生かし、これからも美波町の



まちづくりに関わっていきたいと思っております。改めまして、ありがとうございました。

